

在校生 座談会 大好き! 西高2020!!



岡山 莉子さん
(オカヤマ リコ)
2年4組
(福井野中学出身)
生徒会長

熊谷 裕人君
(クマガイ ユウト)
3年1組
(伏見中学出身)
ハンドボール部部長

小山 はなさん
(コヤマ ハナ)
3年7組
(小樽市立青園中学出身)
茶道部部長

澤田 和樹君
(サワダ カズキ)
3年2組
(北陽中学出身)
バスケットボール部部長

勉強、西高祭、部活動…、 知ってほしい西高の あんなことやこんなこと!

「西高ってどんな学校?もっと知りたい!」そんなキミたちは必見!!
在校生が西高のあれこれ、教えちゃいます!
これを読めば西高に通いたくなること間違いなし!

西高の魅力

岡山:私は家から近いことと、何より自由な校風が楽しそうだったので西高を受験しました。実際入学してみると先生も生徒も個性が豊かで毎日楽しく過ごしています。特に素晴らしい仲間に出会えることは西高の大きな魅力だと思います。西高の生徒会は2年生の西高祭が終わったら実質引退となり、そこからだんだん1年生主体の活動となります。先輩の元を早々に離れ、先輩への憧れをエネルギーにして行事の成功を目指し、駆け抜けていく中で信頼が高まり、仲もどんどん深まったように思います。中学と違い、住んでいるところまででんばらばらですが、今ではかけがえない仲間です。引退が悲しくて仕方ありません。でも、引退したとしてもこの絆は無くならない、そんな気がします。西高の自由な校風だからこそ生徒同士の協力が喚起され、固く強い絆が生まれるのではないのでしょうか。放課後、生徒会室に行くたびに生徒会に入ってよかった、西高に来てよかった、としみじみと感じています。



岡山 莉子さん

小山:行事の多さは西高の大きな魅力ですね。弁大会、運動会、西高祭、体育大会、炊事遠足など、本当に楽しい行事ばかりで、西高に入って良かったと思う瞬間です。全員が全力で行事に取り組むというのも素敵なことだと思います。ですが、遊んでばかりいるわけではありません。普段から自主的に勉強し、自分の進路について真剣に考え、実現に向けて取り組んでいます。そのメリハリが西高生としてあるべき姿なのではないかと思っています。「やるときはやる、やることはやる、やれるだけやる」これを実践できるのが西高生です。

熊谷:僕にとっての最大の魅力は様々な部活動があることですね。西高生である僕自身も何部があるのか分からなくなるくらいあります。ちなみに僕はハンドボール部に所属していたのですが、札幌市内でハンドボールが出来る学校は14校しかありません。西高に入ってからハンドボール部へ入部してみたいかがでしょうか。

澤田:部活動に全力で挑む人が多く、お互いお互いの部活動を応援しているいい雰囲気が学校全体にあります。また、勉強については、能力の高い人達が周りにいるため自分もやらずにはという気持ちになることができます。1年生の頃からでも外国に研修に行くことができたり、大学の研究室訪問などの貴重な経験をする事も出来るということも魅力だと思います。



澤田 和樹君

西高での勉強、生活で 大変なこと

熊谷:どの先生の授業もわかりやすく、理解はできます。でも、進度が早いので、どんどん新しい知識が入ってきて古い内容を忘れてしまうので、しっかり復習をしないといけないことが大変です。しかし、数学などでは定期的に小テストを行ってくれるのでそのテストに向けてしっかりと対策をすることで復習ができ、受験勉強に直結すると思います。

岡山:中学から勉強の習慣がついてなかったのですが、数学の演習量が足りず、高校で数学の点数が少し伸び悩んでしまいました。今毎日頑張っている勉強しています。他教科は中学校の延長という感じで楽しいです。毎日の生活でいうと、服を選ぶことが大変です。周りの人がみんなおしゃれなので。

澤田:今となっては慣れましたが、最初は英単語の小テストや国語の小テストが毎週あるのがキツかったです。運動系の部活動だと疲れて眠いこともあり、授業を寝ずに受けることもかなり大変でした。(笑)ですが家で学習量が少なくなった場合は、やはり授業で疑問などを完結させることが一番大切だと思います。

小山:確かに勉強は大変ですね。私は小樽から通っているのですが、JRとバスでの通学時間を工夫しています。通学時間が長くて辛いと感じる時もありますが、朝に必ず勉強時間を確保できるので、そのすきま時間を有効に使っています。西高に入って、自分と同程度や自分以上の学力を持った人達と一緒に勉強でき、頑張ろうという気持ちがより一層持て、自分の士気が高まりました。自分の苦手な教科は得意な友達に聞き、反対に得意な教科は教えるなど、友達同士で補い合いながら勉強するのは楽しいです。先生方も熱心に私達と向き合ってください。わからないところはわかるまで教えてくれるのはもちろん、小テストや週末課題、添削なども充実していて、大変だと感じる時もありますが、確実に力になっていると思います。



小山 はなさん

西高での一番の思い出

小山:西高での思い出は数え切れない程ありますが、その中でも特に私はアイルランド研修が強く印象に残っています。1年生の時に参加したのですが、その時の私の英語力は低く、うまくやっていたか不安でした。ですが、失敗を恐れずにやれることを一杯やり、その結果たくさんの異なる文化や人々と触れ合うことができました。そして、広い視野で世界に目を向けることを意識できるようになりました。西高は他にも海外研修の機会が多く、とても恵まれていると感じます。

澤田:見学旅行や学校祭など色々な行事があってどれも捨て難いですが、やはり僕は一番時間を費やした部活動でのことが思い出に

残っています。部活動があって勉強が出来ないと悩んだこともありましたが、その分時間をかけた部活動では結果を出さねばという気持ちで頑張っていました。最後の高校連札幌支部大会で5位になり、全道大会出場が決まった時はほんとに嬉しかったです。

熊谷:僕もやはり部活動が最も印象に残っています。僕はハンドボール部に所属していたのですが、高校で全道大会に行くことができませんでした。函館で行われた最後の全道大会では、どのチームも強豪の中、勝ち進んで準決勝まで進出しました。惜しくも3位で終わったのですが、試合が終わった瞬間自然と涙が出ました。これは部活動をしてきた日々がとても充実していたからだと思います。これは西高での一番の思い出とともに一生の思い出です。



熊谷 裕人君

岡山:私は毎日思い出だらけです。一日として似たような日がありません。でも、やっぱり行事の日は格別ですね。私は生徒会なので、準備にもかなり携わっているため思い入れも深く、ひとつの行事が終わるごとに他の人には味わえない達成感とともに行事を楽しめているような気がします。

西高を目指す人に

澤田:高校受験も大変ですが西高は入ってから大変です。ですが、たくさんの行事や普段の生活、部活動など楽しいことが沢山あります。今のきつい時期を乗り越えられるかどうかでこれからの未来が変わると思います。受験生の皆さん頑張ってください!!

小山:西高はとても楽しい学校です。充実した3年間を過ごせます。西高での3年間をどのように過ごしたいのかを考えて、受験勉強を頑張ってください。受験や西高に入った後のイメージを持つことで、自分のモチベーションも上がりますし、今自分が何をすべきかが見えてくると思います。楽しい西高ライフを送れるよう、頑張ってください。

熊谷:他の高校に入学したことはないですが、西高は間違いなく全道一魅力溢れる高校です。その分、倍率も高く入学するのは難しいと思いますが、本気で「西高に入りたい」と思いながら日々過ごることが大切だと思います。この本気度が高い人は必ず勉強にも力が入るでしょう。16~18歳という一生で一番楽しい3年間を西高で過ごし、誰よりも内容の濃い生活を送りましょう。

岡山:北海道の数ある高校の中でもこんなに異彩を放っているのはこの札幌西高ぐらいなのではないでしょうか。珍しいことだらけです。楽しいことだらけです。私はそんな西高が大好きです。青春はどこの高校でも味わえます。でも、西高は西高でしか味わえません!